

武蔵野大学「日本語 2A・2B」（主に学部留学生 2 年生対象）授業実践報告

日高晋介

1. シラバス段階での講義の目的と概要、講義内容、成績評価の方法

武蔵野大学では、四学期制が採用されているため、一学期（4月9日～5月28日；7回）には「日本語 2A」、二学期（5月29日～7月16日；7回）には「日本語 2B」の授業をそれぞれ行った。それぞれ、月曜日の 5 限、6 限に合計 200 分（1 コマ 100 分）の授業を行った。

なお、一・二学期を通じて、同じ 10 名の学生が履修した。ただし、二学期の「日本語 2B」では、前年に単位を取れなかった学生 1 名が履修したため、クラスの人数は 11 名となった。

授業を受ける学生がほぼ固定されており、かつ日本語の運用能力を高めるという同一の目的を持った授業であることから、「日本語 2A」「日本語 2B」は同一の科目と言っても差し支えない。

以下では、まず、「日本語 2A」の講義の目的と概要、成績評価の方法について述べる。

講義の目的は「専門分野のレポート・論文・専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を養成すること」である。

講義では、『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』の 1～5 課、7 課、9～12 課 14 課を通じて、読解そのもののみならず、論理的な文章を読み解くテクニック、文章の構造や文法を学べるよう授業を行った。

成績評価の方法は、小テスト 30%、期末テスト 40%、授業への積極的な参加・毎回の授業の提出物 30%であった。

次に、「日本語 2B」の講義の目的と概要、成績評価の方法について述べる。

講義の目的は「プロセス・ライティングの考え方に基づき、学習者がお互いに書き手・読み手、話し手・聞き手となりあうピア・レスポンスの活動を通して 1 編のレポートを作成すること」である。

講義では、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第 2 版 –プロセス重視のレポート作成–』に沿って、レポート作成・口頭発表のためのスキルを学べるよう授業を行った。

成績評価の方法は、口頭発表（期末テスト）30%、期末レポート 40%、授業への積極的な参加・毎回の授業の提出物 30%であった。

2. 大学から要請された遠隔のルールとそれに基づいて変更し実施した授業内容

文科省は、「遠隔授業」の要件を満たすには、対面授業の要件を満たすことが前提となると述べており、大学側も文科省の前提に従っている印象を受けた。

私は、当初のシラバス通りに、授業を進めようとした。ただし、遠隔授業では学生のピア活動が積極的にできない状況であり、かつ、zoom のブレイクアウトルームを使っても、学生たちの国籍の偏りからか、学生同士が活発に日本語で意見を交わしあう雰囲気はなかった。そのため、クラス全体での発表を多くして、その場で学生から質問を募るようにした。

課題やテストは、Google Forms を用いて作成し、Google Classroom を通じて、授業内に提示し、授業後に集計、各自に返却という形をとった。対面形式の授業と大きく方針をかえなかったため、当初のシラバス記載の配点は変えなかった

3. 学生の反応と今後の課題・可能性

私は、授業中に積極的に学生を指名して、学生の様子を窺った。そうすることで、学生たちに「先生はきちんとあなたたちを見ている」というメッセージが送れたのではないかと考えている。

今後の課題としては、学生同士によるピア活動がオンライン上で活発にできるように、私自身が工夫しながら試行錯誤しなければならないことが挙げられる。

青木亮人・赤阪辰太郎・秋田美帆・秋保さやか・朝山奈津子・阿部直也・有元伸子

飯倉義之・池上大祐・池田さなえ・イザンベール真美・石田健一・石野一晴・石原由貴・李承俊

板倉孝信・市川紘美・伊藤潤一郎・今井宏昌・岩嵯大悟・岩田久美加・上地聡子・宇都伸之

榎本雅之・大井由紀・大賀哲・大坂遊・大貫俊夫・大山貴稔・岡英里奈・越智徹・学谷亮

笠間はるな

加島正浩

片山奈緒美

遠隔でつくる人文社会学知

加藤諭

加藤巧

—2020年度前期の授業実践報告—

加藤朋江

加藤由香子

門田裕次

金原大植

大嶋えり子・小泉勇人・茂木謙之介 編

神村朋佳

亀井伸孝

河西秀哉

木内久美子・北田雄一・木場貴俊・桐原健真・クラウタウ、オリオン・黒木秀房

ケイン樹里安・黄偉修・小二田誠二・小林恭子・小林広直・近藤誠司・坂口可奈

坂本麻裕子・清水貴恵・朱炫姝・菅谷孝義・鈴木真太郎・鈴木崇夫・鈴木隆弘・鈴木悠

須藤武司・春原史寛・関沢和泉・瀬島利林・瀬沼文彰・高木信良・田中樹里・田中直

寺田征也・照屋建太・土居浩・時岡新・伴野崇生・伴野文亮・中沢知史・中嶋洋平

中園宏幸・中妻結・長津結一郎・仲矢信介・成田麗奈・西田彰一・西山雄二・野澤聡

野村朋弘・野原佳代子・橋本嘉代・蓮田隆志・長谷川元洋・服部このみ・花家彩子

早川公・樋田有一郎・日高晋介

平川全機・廣瀬航也・廣田龍平

前田奎・増地ひとみ・松岡昌和

雷音学術出版

松川雄哉・松木優也・松本知子

松本望希・松山響子・湊邦生

宮内洋・宮平隆央・村上一基

村上舞・モリ、アルベルトウス=トーマス・森薫・矢田訓子・矢吹康夫・山崎玲美奈

横田祐美子・吉沢晃・綿貫哲郎

遠隔でつくる人文社会学知

—2020年度前期の授業実践報告—

大嶋えり子・小泉勇人・茂木謙之介 編

雷音学術出版



刊行にあたって

本書はコロナ禍に見舞われた2020年度前期の高等教育機関における人文社会科学系科目の遠隔授業の実践報告148件を集成した共著書籍である。

2020年1月に新型コロナウイルスの国内感染者がはじめて確認されてから、大学をはじめとする高等教育機関はその対応を余儀なくされた。なかでもその代名詞となったのはオンラインの「遠隔授業」である。2020年6月1日時点で約90%の高等教育機関が遠隔授業を取り入れるという状況下で、ほとんどの教員たちは遠隔授業の実践経験を持たないにもかかわらず、長くとも一ヶ月半程度という短期間で事前準備を行い、その後授業期間内での試行錯誤を求められた。その実態を記録する本書には、大きく二点のねらいがある。

一つ目はコロナ禍において高等教育機関の教員達の集合知を形成することである。2020年10月現在においても教員たちがどのような授業を遠隔で行ったのかは必ずしも十分に共有されていない状況がある。すなわち、知り合いの話や、オンラインで発信している教員の報告を読むなどにとどまっているのではないだろうか。その状況への対応として、多くの教員の実践報告を集めることにより、2020年度後期以降の遠隔授業の参考としてもらえるような資料体を構築するとともに、将来的にコロナ禍のさなかでどのような授業が高等教育で実践されたのかという史料としても有意義なものとなることを目指した。

二つ目はコロナ禍のなかで研究者たちにむけてアウトプットの機会を提供することである。前述のように教育活動に制約が課せられていた状況で、研究者でもある教員たちの研究活動の機会が失われていたことも忘れてはならない。2020年夏季以降オンライン上では徐々に復活しつつあるものの、それまでの約半年間にわたり研究会や学会などの研究成果発表の場が激減していたことは記憶にとどめるべきである。特に若手研究者のキャリア形成を考えれば、たとえ短期間であっても損失は大きく、それらを補う機会はあるにしくはない。大胆なことをいえば、本書は、コロナ禍という危機に直面するなかで、新たな人文社会学知を構築する試みでもある。

本書に収録している報告はすべて同じテンプレートに沿ってご執筆いただいた。

各報告は機関名、授業名、対象学年および教員名を記したうえで、①シラバス段階での講義の目的と概要、講義内容、成績評価の方法、②大学から要請された遠隔のルールとそれに基づいて変更し実施した授業内容、③学生の反応と今後の課題・可能性、の三点を全員A4一枚とコンパクトにまとめていただいた。③の学生の反応に関しては、個人の特定などに繋がらないよう、コンプライアンス違反への注意喚起を行った。さらに執筆者の希望により機関名や著者名を伏せた報告も、具体的な機関名・著者名が分かるよりも授業内容とそこでなされた取り組みこそ重要なのだという理由から掲載を認めた。なお、本書に掲載されたいずれの報告も当然ながら高度な専門性を有しているものだが、他分野・多分野の読者の目に触れ得るという本書の特性に鑑み、難解あるいは専門的な用語については補足を加える、平易な言葉に置き換えるなどといった対応をお願いした。また、今回の遠隔授業が政策決定の結果によるものであり、高等教育がそもそも政治と不可分な存在であることを踏まえると、収録する報告において一定の政治的表明が含まれることは不可避であった。そのため、政治的な批判や懸念に言及した記述もそのまま掲載することとした。

このように、異なる領域の科目における実践を報告するうえで、一律に同一のテンプレートを使用することには批判もあるだろうが、敢えて全員に同一の枠組みを課すことによって読者が各事例を比較検討できるようにすることを目指した。その結果は読者の判断に委ねたいが、一読するだけでも授業それぞれに多様な状況が生起し、教員一人ひとりの持ち味が発揮されていることは明白であろう。これまでにない状況下で、急遽成立させなければならなかった遠隔授業において、高い専門性を堅持しつつ、多様な創造性が惹起されていたことには驚嘆すべきである。コロナ禍によるオンラインへの一斉移行は、授業を画一化し、もともとあった高等教育における授業の多様性を損なうと懸念されていたが、実際には一人ひとりの教員が自身の能力や志向に合わせて遠隔授業を実践し、そこにそれぞれの方法で学生が知的な貢献をもたらしたり、学生同士で刺激を与え合ったりする現実があったのだ。なお学生側にも教員側にも多様な不安や不満があり、2020年度前期は苦難とともにあったことはいまでもない。このような遠隔授業に伴った多様な可能性と苦しさの一端が本書から伝わるのならば、編者としては本望である。

ここで、本書の出版形態と出版母体を含めた出版の経緯についても述べておきたい。

本書を出版するにあたっては、無料かつインターネット上で閲覧可能な雑誌あるいは書籍の形態を取ろうと考えた。同時に国会図書館や大学図書館に納めることで利便性を向上させたいとも考えていたため、書籍なら ISBN、雑誌なら ISSN を取得する必要がある、既存の出版社あるいは自前の出版元が必要であった。そして、2020 年度後期の授業の参考になる刊行物にしたかったため、早急な出版が大事だと考えていた。したがって、既存の出版社に企画を出し、無料での配信を許してもらうなどは困難であると同時に、時間がかかりすぎると判断し、任意団体の出版元として雷音学術出版を立ち上げる運びとなった。なお、団体名の由来であるが、「オンライン」の授業から今回の企画を思いついたため、言葉遊びよろしくカタカナ表記で重複した一字(ン)を除いて入れ替えた「ライオン」を音として採用した。「雷」は天(乾)と地(坤)を結ぶ存在として洋の東西を問わず扱われており、苦境の続く学術出版の状況に乾坤一擲を狙うわれわれのあり方と合致すると考え、さらに編者たちはオンライン授業で文字とともに視聴覚メディアなども通じて言葉を届けようとしてきたため、それを象徴する「音」という字を選択した。ちなみに、文学研究専用データベース・Literature Online(LION)にオマージュを捧げてもいる。

ISBN の取得などをせずに、インターネット上で情報を収集・共有するプラットフォームを構築するという手段も可能であったが、それでは執筆者の「実績」にならないのではないかという懸念があったことも述べておきたい。今日アカデミアを取り巻く「実績」重視の思考には議論の余地があるのはいうまでもないが、ISBN を取得し、一冊のみ印刷製本した紙の書籍として大学図書館に納め、またオンライン資料として国会図書館に登録するという作業を経ることによって「実績」として認識されやすくなるのだとすれば、否定的に捉える必要はないと考えた。

具体的な経緯としては 8 月 4 日に日本近代文化史・表象文化論を専門とする茂木謙之介が本企画を思いつき、6 日に Twitter や Facebook、口コミで執筆者の募集を始めた。その最初期に応答のあったのが、国際政治学を専門とする大嶋えり子であったため、当初、茂木・大嶋の二人体制で編者および雷音学術出版の共同代表を務めた。専攻や担当してきた科目に合わせて、茂木は人文学担当、大嶋は社会科学および語学担当という予定だったが、執筆者を募っていくにつれ、社会科学科目と語学の科目が増えていき、大嶋の負担が大きくなることが明らかになったため、英語教育と英文学を専門とする小泉勇人を編者・共同代表として迎えることとなった。なお茂木は学際的な研究を行うとともに、幅広い分野の科目を担当してきた経験があり、大嶋と小泉は早稲田大学ライティング・センターでさまざまな学問領域の文章指導を行ってきた。そのため、多様な領域の教育実践を扱う本書を完成させる過程で、結果的に三人の専門とする学問分野の違いとそれぞれの研究教育の持つ領域横断性は強みとなった。

SNS や口コミでの執筆者募集の結果、全国の高等教育機関の 100 名を超える教員から執筆の申し出があった。そのなかには編者の知己もいるが、まったく面識がない方が非常に多く、編者一同驚いたとともに、心から感謝している。執筆者のみなさんにはテンプレートに沿って書いていただいたが、その過程で個別の電子機器との相性で書式が崩れるなどといった技術的な不具合などもあり、編者から対応をお願いせざるを得ないケースも多々生じたが、いずれの執筆者も快く応じてくださり、大変に有難かった。

出版形態の関係上、原稿料が出せないという編者として大変心苦しい状況であったが、想像以上に多くの方にご執筆いただけた。コロナ禍という危機のなかで、多くの制約を受けつつ教育を続けた経験を記録し、公開して高等教育に資したいという執筆者のみなさんの強い意欲の表れだと言えよう。本書がそうした意欲に少しでも応えられたのであれば、編者として嬉しい限りである。

また、本企画への関心は教員のみならず、マスコミからも寄せられた。2020 年 10 月 3 日の『中日新聞』(朝刊 13 面)で思いもよらない大きな記事で企画を紹介していただいた。コロナの時代における高等教育への社会的関心の高さがうかがえる充実した記事となり、有難く受け止めたとともに、編者にとって企画の意義を再確認する機会ともなった。

2020 年後期においても遠隔授業は多くの教育機関で継続している。より質の高い遠隔授業デザインを実現するために本企画が多くの教員の参考になることを願っている。また、コロナ禍という非常事態における高等教育機関の対応は、将来的に研究・検証されるべき事柄であり、そのためにも記録は極めて重要である。今後の研究の一助となる資料となれば幸いである。

今回は史／資料体の形成を狙っているため、集まった報告を分析するなどはしなかったが、今後は分析を含む刊行物やセミナーを企画していくことも射程に入るだろう。また、本書では編者の専攻に従い人文社会科学系科目のみを扱ったが、自然科学系の科目や高等教育機関以外、さらには外国の教育機関における遠隔授業の実践にも目を向けていければと考えている。

本書の企画は、誰よりも前期の疲れも回復せぬうちに後期の遠隔授業に備えなければならない状況のなかで、時間を割き、無償でご協力くださった執筆者のみなさんに支えられたものである。みなさんには改めて深く感謝したい。また企画の情報を広く共有し、新たな執筆者をご紹介くださった方々、雷音学術出版の事務局を大嶋の研究室に置くことを許諾してくれた金城学院大学、原稿チェックにご協力いただいた西田桐子氏にも謝意を表したい。

最後に映画『銀河鉄道の夜』(杉井ギサブロー監督・1985 年)からの引用を以て本企画と雷音学術出版の船出を宣言したい。

「ここよりはじまる」

2020 年 10 月
遠隔授業の準備をするそれぞれの部屋にて
編者一同

目次

刊行にあたって	i
語学	1
豊橋技術科学大学「フランス語 I」(2年生対象)授業実践報告 赤阪辰太郎	3
関西学院大学「日本語学習科目読解(レベル 5-8B)1」(交換留学生対象)授業実践報告 秋田美帆	4
東京外国語大学「地域言語 A(英語 1-4)英語で学ぶアフリカ」(1年生対象)授業実践報告 イザンベール真美	5
慶應義塾大学「中国語第IV」(2年生対象)授業実践報告 石野一晴	6
東京工業大学「英語第一・第二」(1年生対象)授業実践報告 石原由貴	7
金城学院大学国際情報学部「国際情報演習(1)」(2年生)授業実践報告 大嶋えり子	8
慶應義塾大学(通信教育部夏期スクーリング)「フランス語(初級前期)I-A・I-B」授業実践報告 学谷亮	9
日本映画大学「英語 I」(1,4年生対象)授業実践報告 学谷亮	10
東京福祉大学(名古屋キャンパス)「文章表現」(1年生対象)授業実践報告 加藤由香子	11
東京福祉大学(名古屋キャンパス)「アメリカの文化と言語 I」(1年生対象)授業実践報告 加藤由香子	12
東京国際工科専門職大学「英語コミュニケーション 1a」(1年生対象)授業実践報告 門田裕次	13
東京工業大学・英語第五・第六(リスニング・スピーキング)」(2年生対象)授業実践報告 木内久美子	14
東京工業大学「英語第一 クラス 15(LS)」(1年生対象)授業実践報告 小泉勇人	15
明治大学「英語講読 I」(1年生対象)授業実践報告 小泉勇人	16
法政大学法学部「外国書講読(中国語) I」授業実践報告 黄偉修	17
桜美林大学「口語表現 I」(1年生対象)授業実践報告 清水貴恵	18
目白大学「韓国語基礎会話」(1年生対象)授業実践報告 朱炫姝	19
東京国際工科専門職大学「コミュニケーション英語 1a」(1年生対象)授業実践報告 菅谷孝義	20
東北学院大学「フランス語 IA」(1年生対象)授業実践報告 鈴木真太郎	21
仙台白百合女子大学「ビジネス・イングリッシュ」(2年生対象)授業実践報告 鈴木真太郎	22
iU 情報経営イノベーション専門職大学「ビジネス英語実習 I(Practical Business English I)」(1年生対象)授業実践報告書 Liling Sejima	23
龍谷大学「ドイツ語 I」(1年生対象)授業実践報告 田中直	24
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)「日本語スキル 1A 講義の受け方」(学部・大学院全学年留学生・帰国生対象)授業実践報告 伴野崇生	25
日本女子大学「Presentation English1」(1年生対象)授業実践報告 中妻結	26
順天堂大学「English for Global Citizenship1」(2年生対象)授業実践報告 中妻結	27
武蔵野大学「日本語 2A・2B」(主に学部留学生 2年生対象)授業実践報告 日高晋介	28
尚絅学院大学「日本語表現法」(2年生対象)授業実践報告 廣瀬航也	29

南山大学「フランス語Ⅰ<S・全>」・「フランス語Ⅱ<S・全>」（1年生対象）授業実践報告 松川雄哉	30
同志社大学「コミュニケーション・イングリッシュ」（1年生対象）授業実践報告 松本知子	31
近畿大学「アカデミックリーディング1」bクラス（理工学部電気電子工学科2年生以上対象）授業実践報告 松本望希	32
大阪成蹊大学「英語演習Ⅰ」（芸術学部1、4年生対象）授業実践報告 松本望希	33
東洋大学「フランス語Ⅲ」（2年生対象）授業実践報告 村上一基	34
西南学院大学「フランス語初級Ⅰ(2)」（1年生対象）授業実践報告 村上舞	35
A大学※における「韓国語入門」（1年生対象）授業実践報告 山崎玲美奈	36
日本大学商学部「中国語」（1年生対象）授業実践報告 綿貫哲郎	37
X大学「中国語Ⅰ」（1年生対象）授業実践報告	38
人文学	39
愛媛大学教育学部「日本近代文学概説」（2年生対象）授業実践報告 青木亮人	41
愛媛大学教育学部「初等国語」（2～4年生対象）授業実践報告 青木亮人	42
弘前大学教育学部「音楽史(日本の伝統音楽及び民族音楽を含む)」（1年生対象）授業実践報告 朝山奈津子	43
広島大学「現代文学概説」（2年生対象）授業実践報告 有元伸子	44
國學院大學文学部日本文学科 「伝承文学概説Ⅰ」（1年生対象必修科目）授業実践報告 飯倉義之	45
琉球大学「歴史総合」（1～2年生対象）授業実践報告 池上大祐	46
京都大学「ILASセミナー：近現代日本における「病」の歴史」（全学年対象）授業実践報告 池田さなえ	47
愛知学院大学「韓国文化事情」（1年生対象）授業実践報告 李承俊	48
新潟大学「歴史学Ⅴ」（全学部・全学年対象）授業実践報告 板倉孝信	49
東京女子大学「日本語表現法」（1・2年生対象）授業実践報告 市川紘美	50
早稲田大学「表象・メディア論系演習(表象文化の政治経済学1)」（2～4年生対象）授業実践報告 伊藤潤一郎	51
九州大学「ヨーロッパ史学講義Ⅲ：「感染」と「衛生」のドイツ近現代史」（2年生以上対象）授業実践報告 今井宏昌	52
立教大学「キリスト教学講義 1」（2年生以上対象）授業実践報告 岩寄大悟	53
共立女子大学「漢文学概論A」（2～4年生対象）授業実践報告 岩田久美加	54
共立女子大学大学院「日本文学基礎研究(古代文学)(院1・2年生対象)授業実践報告 岩田久美加	55
日本大学「日本政治思想史Ⅰ」（2～4年生対象）授業実践報告 上地聡子	56
金城学院大学国際情報学部「WLIA」（1年生）授業実践報告 大嶋えり子	57
東京都立大学「西洋史学演習Ⅰ」（2～4年生対象）授業実践報告 大貫俊夫	58
山形県立米沢女子短期大学「国文学演習Ⅳ」（2年生対象）授業実践報告 岡英里奈	59
宮城学院女子大学「日本語検定対策」（2年生対象）授業実践報告 笠間はるな	60
愛知淑徳大学「基礎購読」（1年生対象）授業実践報告 加島正浩	61

玉川大学「Project Management Workshop」(4年生対象)授業実践報告 片山奈緒美	62
東北大学「博物館実習VI」(3年生対象)授業実践報告 加藤諭	63
名古屋造形大学「美術基礎II-A(洋画)」(2年生対象)授業実践報告 加藤巧	64
帝塚山学院大学「絵本論」(1-4年生対象)授業実践報告 神村朋佳	65
愛知県立大学「研究各論(アフリカ研究)」(2-3年生対象)授業実践報告 亀井伸孝	66
名古屋大学「日本近・現代史史料学概説」(3年生対象)授業実践報告 河西秀哉	67
大阪産業大学「文章表現演習/表現力基礎演習」(1年生対象)授業実践報告 北田雄一	68
甲南大学「日本研究(前)」(全年生対象)授業実践報告 木場貴俊	69
金城学院大学「学校経営と学校図書館」(3年生対象)授業実践報告 桐原健真	70
東北大学国際文化研究科「日本宗教史」(大学院)授業実践報告 Orion KLAUTAU	71
立教大学「他者の現象学」(2~4年生対象)授業実践報告 黒木秀房	72
日本薬科大学「日本史」(1年生対象)授業実践報告 黄偉修	73
静岡大学「地域文学文化基礎論I」(1年生対象)授業実践報告 小二田誠二	74
東洋学園大学「英米文学入門」(1年生以上対象)授業実践報告 小林広直	75
早稲田大学「日本語文化論1・2」(1年生以上対象)授業実践報告 坂本麻裕子	76
愛知淑徳大学「違いを共に生きる・ライフデザイン」(初年次生対象)授業実践報告 鈴木崇夫・増地 ひとみ	77
武蔵野美術大学「ミュージオロジー入門」(1年生対象)授業実践報告 春原史寛	78
東日本国際大学「基礎演習I」(1年生対象)授業実践報告 関沢和泉	79
沖縄キリスト教短期大学「飼育栽培」(1年次対象)授業実践報告 照屋建太	80
ものづくり大学「コンピュータ基礎および実習I」(1年生対象)授業実践報告 土居浩	81
金城学院大学国際情報学部「WLIA」(1年生対象)授業実践報告 時岡新	82
東北大学「人文社会序論「現代日本学入門」」(1年次以上対象)授業実践報告 伴野文亮・茂木謙之介	83
九州大学「音楽社会学(研究方法編)」(2年生対象)授業実践報告 長津結一郎	84
東京国際大学「専門演習」(3・4年生対象)授業実践報告 仲矢信介	85
フェリス学院大学「基礎演習」(1年生対象)授業実践報告 成田麗奈	86
阪南大学「現代史a(A)」(1~4年生対象)授業実践報告 西田彰一	87
東京都立大学「人間・文化・社会」(1年生対象)授業実践報告 西山雄二	88
獨協大学「科学史I」(全学部全学年対象)授業実践報告 野澤聡	89
京都芸術大学「文献資料講読」(2年生対象)授業実践報告 野村朋弘	90
立命館アジア太平洋大学「Global History EA」(2回生以上対象)授業実践報告 蓮田隆志	91
金城学院大学国際情報学部「WLI C」(2,3年生)授業実践報告 長谷川元洋	92
金城学院大学国際情報学部「WLI C」(2,3年生)「WLI A」(1年生)合同授業実践報告 長谷川元洋	93
中部大学「近現代文学講読A」(2年生対象)授業実践報告 服部このみ	94
常葉大学健康プロデュース学部こども健康学科「保育内容(言葉)」(2年生対象)授業実践報告 花家 彩子	95
大阪国際大学「地域コミュニティ論」(2年生対象)授業実践報告 早川公	96

大東文化大学「社会1(歴史)」(主に1~2年生対象)授業実践報告 松岡昌和.....	97
駒沢女子大学「イギリス文学I」(2年生以上対象)授業実践報告 松山響子.....	98
東北大学文学部「現代日本学各論」(3年生以上)授業実践報告 茂木謙之介.....	99
関西大学政策創造学部「専門導入ゼミ1(グローバル・スタディーズ・コース)」(2年生対象)授業実践報告 アルベルトゥス=トーマス・モリ.....	100
近畿大学経済学部「現代の社会論(社会学)」(全学年対象)授業実践報告 アルベルトゥス=トーマス・モリ.....	101
学習院大学「現代哲学演習II」(2-4年生対象)授業実践報告 横田祐美子.....	102
社会科学	103
福岡大学「文化人類学A:異文化理解の探求」(1、2年生対象)授業実践報告 秋保さやか.....	105
東京工業大学「国際開発共創概論」(主に2、3年生対象)授業実践報告 阿部直也.....	106
「国際NGO論-現場からのアプローチ」(大学院生対象)授業実践報告 石田健一.....	107
北陸大学「日本語リテラシーI」(1年生対象)授業実践報告 宇都伸之.....	108
滋賀大学経済学部「スポーツ科学II」(夜間主1-4年生対象)授業実践報告 榎本雅之.....	109
南山大学「社会学研究の基礎(アメリカ)」(外国語学部1-4年生対象)授業実践報告 大井由紀.....	110
南山大学「アメリカの社会」(外国語学部2-4年生対象)授業実践報告 大井由紀.....	111
九州大学・国際政治学I(3・4年生対象)授業実践報告 大賀哲.....	112
徳山大学「公民科教育法I」(3年生対象)授業実践報告 大坂遊.....	113
金城学院大学国際情報学部「国際情報演習(3)」(3年生対象)授業実践報告 大嶋えり子.....	114
金城学院大学国際情報学部「国際情報概論」(1年生)授業実践報告 大嶋えり子.....	115
金城学院大学国際情報学部「地域研究総論」(1年生以上)授業実践報告 大嶋えり子.....	116
九州工業大学「国際関係論」(1、2年生対象)授業実践報告 大山貴稔.....	117
大阪工業大学「基礎情報処理I」(1年生対象)授業実践報告 越智徹.....	118
福岡女子短期大学「保育実習指導3」(2年生対象)授業実践報告 加藤朋江.....	119
大阪府立大学「経済学・経営学のための数学」(1年生対象)授業実践報告 金原大植.....	120
大阪府立大学「経済政策」(3年生対象)授業実践報告 金原大植.....	121
桃山学院大学「マス・コミュニケーション論」(全学年対象)授業実践報告 ケイン樹里安.....	122
桃山学院大学「視覚メディア論」(全学年対象)授業実践報告 ケイン樹里安.....	123
桃山学院大学「社会学原論(春集)」(全学年対象)授業実践報告 ケイン樹里安.....	124
法政大学「アジア比較政治論I」授業実践報告 黄偉修.....	125
目白大学「音楽表現基礎2(ピアノ)」(2年生対象)授業実践報告 小林恭子.....	126
関西大学「専門演習・卒業研究:災害ジャーナリズム論」(3~4年次生対象)実践報告 近藤誠司.....	127
北海道大学「特殊講義I(ASEANの政治と経済A)」(2年生以上対象)授業実践報告 坂口可奈.....	128
北海道大学「国際関係論(政治学を含む)」(2年生以上対象)授業実践報告 坂口可奈.....	129
高千穂大学「教育方法(中高)」(2年生対象)授業実践報告 鈴木隆弘.....	130
群馬県立女子大学「国際法」(学部2年生以上対象)授業実践報告 鈴木悠.....	131

帝京平成大学大学院「学校カウンセリング特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」（修士1年生対象）授業実践報告 須藤武司	132
西武文理大学 「レジャー産業論」（3、4年生対象）授業実践報告 瀬沼文彰	133
目白大学「音楽表現基礎2（声楽）」（2年生対象）授業実践報告 田中樹里.....	134
立命館大学・国際関係学部「近現代史」（全学年対象）授業実践報告 田中直	135
明星大学「社会学への招待A」（1年生対象）授業実践報告 寺田征也	136
明星大学「社会学原論A」（2～4年生対象）授業実践報告 寺田征也	137
南山大学「ラテンアメリカ史A」（学部2年生以上対象）授業実践報告 中沢知史.....	138
同志社大学「グローバル地域文化導入セミナー」（1年生対象）授業実践報告 中嶋洋平	139
広島修道大学「経営管理論」（2年生以上対象）授業実践報告 中園宏幸	140
東京工業大学「社会デザインプロジェクト」（学部2年生対象）授業実践報告 野原佳代子.....	141
筑紫女学園大学現代社会学部「現代社会とメディア」（1年生対象）授業実践報告 橋本嘉代.....	142
奈良教育大学「教育社会学」（2年生他対象）授業実践報告 樋田有一郎	143
北海道大学「社会の認識 データと事例から考える社会学の基礎」（1年生対象）授業実践報告 平川全機	144
東洋大学「異文化と社会事情」（全学年対象）授業実践報告 廣田 龍平	145
京都先端科学大学「陸上競技」（1年生対象 選択必修科目）授業実践報告 前田奎.....	146
関西福祉科学大学「体育実技（A・B・C）」（1年生対象）授業実践報告 松木優也・高木信良....	147
高知大学「社会調査論」（1年生対象）授業実践報告 湊邦生.....	148
群馬県立女子大学「心理学A」（1年生対象）授業実践報告 宮内洋.....	149
沖縄キリスト教短期大学「子ども家庭支援論」（2年生対象）授業実践報告 宮平隆央	150
埼玉大学「初等音楽科指導法」（2年生以上対象）授業実践報告 森薫.....	151
川村学園女子大学「道徳教育の指導法（小）」（2年生対象）授業実践報告 矢田訓子	152
立教大学「差別と偏見の社会学」（2年生以上対象）授業実践報告 矢吹康夫.....	153
関西大学「発展演習政治学」（2年生対象）授業実践報告 吉沢晃	154
著者プロフィール	155